

紀州湯川氏の祖先伝承に関する一考察
大山 喬平

宇佐八幡託宣集の一考察
湯川 敏治
二宮 正彦

新田義貞の西征をめぐる問題
茨木 一成
花宮三代記考
宮崎 隆旨

兵庫小野市文化財拾遺
齊藤 孝
坂上氏の長宝寺所蔵よみがえりの草紙
井上 薫

三重県亀山市及び関町における佐藤継信・忠信兄弟の伝承
鶴崎 裕雄

丹波国小野原荘における祭祀をめぐる一考察
久下 隆史

石川丈山事蹟考
山本 四郎

狩野山雪における正統と異端
田中 豊

対馬以酹庵輪番僧江岳元策について
泉 澄一

有沢永貞と『諸国居城之図』をめぐる一考察
北垣聡一郎

近世寺内町の存立
藤本 篤

藩札資料からみた名塩紙
亥野 疆

天保期における森川杜園の動向
浅井 允晶
山田方谷の改革理念について
朝森 要
幕末における第二回オランダ留学生

両墓制における石塔と埋葬地
井阪 康二
明治初年堺県における神社整理
服部 敬

三重紡績所の水力的基礎
末尾 至行
淡路島やきもの概説
広岡 俊二

今井嘉幸と『五十年の夢』
松岡 文平
大正・昭和初期の大都市制度問題

戦時体制下における住友財閥
芝村 篤樹
大阪空襲下の人心の動向
小田 康徳

結婚式場と霊園墓地
小山 仁示
竹田 聰洲
(A5判 一〇一〇頁 一九七六年九月 横田 健一先生還暦記念会 頒価一五、〇〇〇円)
(京都大学助手 今谷 明)

J・デスパニエ著、有田忠郎訳
『自然哲学再興・ヘルメス哲学の秘法』

本書はジャン・デスパニエ (Jean d'Espagnat) が一六二三年、パリで出版した *Enchiridion Physicæ restitutæ* 及び *Arænum Hermeticæ Philosophiæ Opus* の翻訳であり、「ヘルメス叢書」の一冊として

出版された。底本にはJ・ルフェーブル・ドゥザグによる仏訳本 *L'Œuvre de la Philosophie d'Hermès, précédée de la Philosophie naturelle restituée, 1972* が用いられている。

著者のデスパニエは、ミシュレの『魔女』(一八六二)で有名なバスク地方の魔女事件のさい(一六〇九)にアンリ四世の命を受けてラグールに派遣されたポルドーの高等法院長であった。もっともミシュレが、ほとんど侮蔑的な調子で断罪したのはもう一人の裁判官ピエル・ド・ランクルのほうで、デスパニエは五百人以上の魔女を出廷させた魔女狩りにもたいした関りはもたなかったらしい。

デスパニエにはすでに一六一〇年『若き君主のための教育論』の著作もあったが、なかでもアリストテレス的な用辞を用いて秘教主義的な自然哲学を展開した本書は、その後も版を重ねアルビネウスやマンジエによる同種書物のコレクションにも収録されている。

『自然哲学の再興』は二四五の断章からなる。そのうち訳出されているのは一一五九、一三三一―一五六、二一三一―二四五で、

オミットされた部分は仏訳者の要約がそれを補っている。大きな章だてはなく、それぞれの断章は前章の帰結であったり、再言であったり、あるいは解説、是正、弁護であったり、かなり複雑なシークエンスの限のない連続で、一貫性を欠く印象を与える。

しいて行なうなら次のような区分が可能だろう。(1)創造主と被造物との関係に関する部分(断章一一九) ここでは神は「工匠」に、自然は「代理をつとめる工人」に喩えられる。世界は自然から区別されている。(2)世界の界域に関する部分(一一〇—一一二)、(3)「万物の根源をなす劫初の物質」であり、「諸元素および世界の直接材料」である第一物質に関する部分(一一一—一一九)、それは「深淵」とも「暗黒の蒸気」とも呼ばれる。(4)世界の創造に関する部分(一二〇—一二八) 創造の第一日は、「暗黒の量塊」たる質料的根源に光である普遍的形相が滲透することを開始した。(5)太陽の創造に関する部分(一二八—一三六)。太陽は「宇宙の心臓」に喩えられ、太陽中心説がうべなうべきものとされる。(6)人間の創造に関する部分(一三七—一三九)、(7)質料と形相に

関する部分(四〇—四九)、「欠如」が自然の原理から排除され、「腐敗」は生殖に必要な作用因とされる。(8)純粋元素と物質元素及び混合体に関する部分(五〇—五九)

(9)自然の循環に関する部分(一一三—一二九)、昇華、沈澱、煎出、稀薄化、凝縮、乾燥、湿潤、熟成といった用語で説明される。そして「みみずにいたるまですべての動物が、海藻にいたるまですべての植物が」類似によって「それぞれ一つの小さな世界で大きな世界の像に対応している」とする。(10)三つの第二次元素、塩と硫黄と水銀に関する部分(一一五〇—一一五六)。それらは、三つの一次元素の三重の婚姻と結合から生まれる。(11)金属の生命に関する部分(一一五五—一五六)、(12)根源的湿性に関する部分(一二三—一二五)それは「不死」であり、第一物質の名残り、その純粋にして不減な一部である。それはまた生命と生殖の直接主体である。(13)天界の普遍の実質に関する部分(一二三—一二四)。それは、「各部がひとつなぎになって切れ目が無い状態にある。」「したがって、この世界を巧みに組み立てられた機械のようなものだと考えてはならない」とする。そして唐突に(14)神

の「知」と「意」に関する論議(一二四五)を行なってデスバニエは退く。以上、きわめて疎略で乱暴な紹介でしかないが、もとより一貫性を欠く著作であるのでよしとせられれば幸いである。

ただつけ加えるならば、我々が近年、Frances Yates の *Giordano Bruno and the Hermetic Tradition*, 1964 その他によってようやく概略的にもふれうるようになったいわゆる「ヘルメス哲学」なるものと、デスバニエのそれとは、若干の懸隔があるように思われる。デスバニエの特徴は秘教哲学へのアリストテレス—スコラ学的な語彙の導入であり、そうした枠組の中の秘教哲学の再構成である。彼には、一六世紀の戦闘的なマギス達の荒々しさはみられず、「再興」を唱えながら、むしろ後退した居ずまいの正しさのようなものが感じられる。あるいは一七世紀前半の一般的なスコラ学のリヴァイヴァルの気運の中で考えあぐねた末の手段であったのだろうか。

対照的に、この『自然哲学の再興』と、総論と各論、理論と応用との関係にある『ヘルメス哲学の秘法』は、「賢者の石」抽出のための手続きを伝統どおり、定型を

一歩もせず、具体的に解説している。この著述の態度の相違は、出版当時の表題と、ドゥザークの仏訳の表題とにおける両書の主客の逆転とともに興味深く、しかもおそらく重要である。

卷末の訳者解説は、宗教学、心理学、文学、図像学、科学史、精神史等のそれぞれの立場からアプローチされているヘルメス哲学―錬金術の、現在における最大公約数的な理解を簡潔に、てぎわよくまとめとり、良質の解説である。図版中、出典不明となっている一五二ページのものは、V・VII・Xの図版同様、Elias Ashmole, *The-atom Chemicum Britannicum*, 1652, p. 102. にみえる。

(B6判 二四〇頁 一九七七年五月 白水社
(ルメス叢書2) 二、〇〇〇円)
(川島昭夫 京都大学大学院生)

竹田聴洲博士還暦記念会編

『竹田聴洲博士
還暦記念』 日本宗教の
歴史と民俗』

介
本書は、同志社大学文学部教授竹田聴洲先生の還暦を記念して、一九七六年一二月

に刊行されたものです。

竹田先生は、一九一六(大正五)年大阪市に生まれ、一九三七(昭和一二)年京都帝國大学文学部史学科に入学、四〇年には同大学院にすすまれました。その後兵役により大学を離れられましたが、戦後復員とともに大学院に復学、御研鑽を積まれました。一九五四年からは同志社大学に勤務され、六〇年に同大学文学部教授に任ぜられ、現在にいたっています。また、この間、三〇年近く講師を続けられている仏教大学をはじめ、関西大学・花園大学・京都大学・大阪府立女子大学・北海道大学等でも教鞭をとられ、多くの学生を指導してこられました。

先生の学問は、歴大な在地史料・民俗資料を駆使して、日本の歴史的社會における宗教の意義と役割を、地域の人々の生活に密着したものととして解明しようとするものであります。そしてそれは、『民俗仏教と祖先崇拜』(東大出版 一九七一年)『近世村落の社寺と神仏習合』(法蔵館 一九七二年)をはじめとした著作・論文に結実し、大きな成果を収めています。先生は、今なお前に増して、広範な学問領域にわたって、旺盛な研究活動をすすめられています。

本書は、これまで様々なかたちで先生の学問にふれ、共に切磋琢磨し、或は指導をうけた、関係者・受講生の有志による獻呈論文集です。冒頭に、竹田先生の論稿があり、以下二四本の論文が歴史篇・民俗篇の二部にかけて収載されています。何分多数ですので、以下タイトルのみ紹介しておきます(副題は略しました)。なお巻頭には、竹田先生の略年譜と上梓目録が掲載されています。

近代民間寺院の生熊系……………竹田 聴洲
歴 史 篇

檀越について……………五島 正樹
『延暦僧録』聖武天皇伝と国分寺建立……………中井 真孝
石清水八幡宮創記の背景……………小倉 暎一
不動尊信仰の伝播者の問題……………田中 久夫
屠牛者放……………西田 円我
僧伝における史実と説話……………成田 俊治
朝日山信寂と浄土宗播磨義……………蘭田 香融
浄土宗初期の付法について……………玉山 成元
生馬山竹林寺の開創伝承考証……………長谷川嘉和
近江国得珍保今堀郷の村掟……………仲村 研